

平成 22 年度（2010 年度）第 1 回運営委員会記録

豊中市教育センター

日 時 平成 22 年（2010 年）6 月 29 日（火）
会 場 豊中市教育センター 研修室
出席者 寺本委員、福田委員、青柳委員、佐渡委員、藤原委員、楢原委員、高祖委員、宮本委員、北尾委員、
越桐委員、芳賀委員
鈴木所長、大屋主幹、井角副主幹、成瀬係長、佐藤係長（記録：福本）
欠席者 酒井昭博委員、黒田委員、津田委員、井坂委員、酒井哲也委員
進 行 佐藤係長
傍聴者 なし

○委員紹介

○所長挨拶

○委員長・副委員長選出

委員長－福田委員、副委員長－青柳委員

1. 開会の挨拶（福田委員長）

2. 案件

（1）本年度の教育センターの組織・運営について

- ・教育センターに求められるもの
- ・構成メンバー
- ・利用者、利用件数
- ・昨年度の提言から
 - ①サタデーサポートの工夫
 - ②保護者向けの発信の工夫
 - ③豊中市教育振興計画と各課連携

（2）本年度の事業計画について

○研究・研修係

- ・初任者研修
- ・十年経験者研修
- ・夏期休業中の研修 2 つについて（ニューステージ研修 I、夏期研修）

○教育相談係

- ・係業務の概要
- ・今年度の方向
- ・教育相談員派遣事業
- ・研修

○養護教育係

- ・支援学級在籍児童・生徒・学級数

- ・就学相談等で学校を訪問
- ・巡回相談
- ・研修

○情報・科学教育係

- ・係業務の概要
- ・昨年度導入したICT機器を活用できる条件整備
- ・20校のコンピュータ機器の更新
- ・科学教育について

【質疑・意見】

- ・今豊中の小学校中学校の先生にとって一番大きい課題は新学習指導要領の取り組みではないのか。各地で新学習指導要領の研究会や研修をやっている。落語家や演出家を講師にした研修というのは、新学習指導要領の「言語活動の重視」にかかわるとは思うが、授業や評価をどうするかということに直接応える研修テーマがない。具体的に現代的な課題に沿った焦点を絞った研修が必要ではないか。研修のあり方を抜本的に作り変えてほしい。他地域の動向を学んでじかに役立つ講座を、数少なくてもいいので精選してやってほしい。
- ・実践的な内容については各校が校内で授業研究をやっている。有意義な研修があれば参加したい。ICTの研修も必要なので校内でやっている。センターの研修もプラスになっている。
- ・中学校でも新教育課程に向けて計画的に進めている。教育センターの研修は、人をひきつけるものが必要。研究者の方の講演は中味は濃い、むずかしい、活かし方がわかりにくい。即、活力になる研修ありがたい。教師のやる気を引き出すにはいい。
- ・教育センターが全市的にやっていく研修としてどんな研修像を描くか。よりいいものを追求していく必要がある。それぞれの研修の内容はよくても、参加者が少ない研修が多く課題である。全教職員のうち、ほんのわずかししか参加していない。これをどう考えるか。いろいろな研修があるのはありがたい。ネットなどではハウトゥーものが多い中で、得がたい内容のものである。参加の仕組みをどう作るかが課題。
- ・企画に現場のニーズをどうくみ上げる仕組みがあるのか。アンケートや直接管理職に聞くとかいろいろ方法はあと思う。現場で今困っていることをうまくくみ上げているか。
→充分ではないと思う。課題によっては求めがわかりやすいものもある。アンケートをとっても声が充分反映されない。アンテナを張り巡らせ、必要なものを考えている。情報収集について追求したい。
- ・アンケートに対して現場もあまり協力できていない面もあるが、現場や時代のニーズをリサーチして研修を実施し、成果をあげてほしい。
- ・「養護教育」係の名前は、「支援教育」というのは取り入れないのか？
→府は名称を変えた。名称についてはいろいろ話題になるが、支障がなければこのままでいく。

- ・養護学校も名称が変わったが。
- ・「支障なければ」という発想ではなく、新しい理念を表に出した看板に変えるべき。前向きに理念を学校に広めてほしい。
- ・このことは根が深いが、新しい理念を先頭切って、普及せねばならないのでは。
- ・センターで科学的な取り組みをするのはいいが、南部の子どもたちにもやってほしい。
→移動実験教室など地域に出向き、子どもたちも参加しやすい環境を設定する予定である。また、大学や科学クラブとも連携し、科学にふれる機会を増やしたいと考えている。
- ・理科・数学教育の活性化のために、南北の差を埋める事業をよろしく。

3. 閉会のあいさつ

(※終了後、自由参加でICT機器を体感いただく)